

ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇

XXIII

橋 本 侃

「墓の見張り」

〔カヤパがピラトの所へ赴く。〕

(1)

カヤパ ピラト閣下、お聞きください、わたしが申しあげてをよくお聞きください。
新しい報せをお聞かせしよう。

一つのことには気をつけなくてはなりません。

さもないと、後悔することになるかもしれません。

(2)

あのイエスのことは良く知っておられますな？

イエスはわれらに向かって解り易い言葉で言いました、

写本一八九頁

「これが事実と分かるであらう――

わたしは三日目に再び立ち上がる」と。

奴の弟子たちがやって来て、

墓から亡き骸を盗み出し、

説教に出掛けて、はつきりと触れ回ることでしょう、

「師は三日目に立ち上がった」と。

(3)

これが差し上げたいご助言です。

騎士たちを召集され、命じられることです、

巨大な軍事力で墓を監視させるのです、

三日目の日が過ぎるまで。

(4)

ピラト カヤパ殿、そのようにさせましょう、

おっしゃるとおり、その危険性があるからには。

もし、そのとおりのことが起こったら、

われらの掟は差し止めになりかねません。

あなたがここを辞去される前に、ご覧に入れましょう、

この件をわたしがどう切り抜けるかを。

それに、この件に関して、わたしが何を言い、

どのような命令を下すのかも。

(5)

騎士アメラント、前に出よ。

騎士アルファクサット、傍へ寄れ。

それに騎士コストランと騎士アフランドも。

これがお前たちがし遂げなくてはならないことだ――

イエスの墓に行き、

三日目の日が過ぎ去るまで、

それが友だろうが敵であろうが、

誰の手も入口の石に、どのようにであれ、触れさせるな！

(6)

弟子の誰かがやって来て、

お前たちの監視下から死体を持ち去ろうとしたら、

怖がることはない、撲り倒せ。

そんな奴は恥ずかしい死に目に遭わせてやるのだ。

お前たちの財産と命を罰として取り上げるぞ、お前たちが監視しているというのに、奴の弟子に何かをさせてもしたら、加えて言う、お前たちの子供と妻をも罰することにする——弟子の奴らに何かをさせてもしたら、すべてを失うのだ。

(7)

騎士一 ピラト閣下、わたしどもは責任を放棄などしません、

左一八九頁

ご命令を固持します。

騎士二 そのとおりです、百人の騎士団を張りつけば——

わたしが請け合います、必ず殺してやれます。

(8)

騎士三 それに百人を加えますから、更に百人が来ても、それがなんです！

奴の弟子にわれらを阻止などさせるものですか。

騎士四 そのとおりです、百の千倍、いや、それ以上の弟子が来たところで、

この片手一つで殺してやりましょう。

(9)

ピラト それならば、皆の者よ、務めを果たせ。

良く気をつけて、命じられたことをせよ、

これ以上のことは言わぬ。

出陣するからには賢明に事を運べ。〔ここで、騎士団は宮殿を出る。〕

(10)

さあ、カヤパ殿、どのようにお考えかな？

この件に関して、事はうまく運んでいないのかな？

カヤパ いやいや、閣下、すべては大丈夫です。

疑いなど、お持ちなさいますな。

(11)

騎士一アルファクサット 騎士アメラント、どの位置につけられたのか拝見したい――

警護に当たるのは、足ですか、頭ですか？

騎士ニアメラント 頭の方、と言っておきましょう。

だから、こっちへ来る奴は直ぐに殺してやります。

(12)

アルファクサット それなら、今回はわしは足の方を警備しよう、

ジャックとジルの両方が来ようが。

騎士三コスドラン それなら、わしは右側を守ろう。

誰が来ようが、そいつを殺してやる。

騎士四アフロント それなら、わしは左側にすることにしよう、

誰が来ようが、そいつを亡き者にしてやる。

必ずや、そいつを壊滅させてやろう、

数撃を食らわせてわしの職分を果たそう。

ピラト閣下、良い一日を！

われらは体を下口にまみれさせ、

しっかりと目を開け、

ぐるりと回りを警戒します。

ピラト さて、諸公よ、してくださいさらぬか、

わしと一緒に行って、墓に封印を、

奴が墓から立ちあがらないように――

とつくに奴は死んでいるが……。

カヤパ 承知しました。今、ご一緒しましょう。

封をして見張らせれば、

われらに災いはなくなり、

奴を恐れることありません。

〔ココデ、ぴらと、かやば、あんなすト騎士団ハ墓ニ行ク。〕

(13)

アンナス ご覧ください、すべての用意が整っています。

直ぐに封印を施しなさい。

これであなたがたは安全だと請合います。

奴は再び立ちあがることはありません。

ピラト この隅に、わしの紋章を押し、

この蠟でこの穴を封印した。

あえてここに確約する、

奴はこの墓穴から決して逃げられぬ！

(14)

アンナス ご覧ください、ここに使える蠟がもつとあります。

隅という隅を全部、封印しましょう。

それに、錠前をつけて鍵も下ろしてから、

帰ることにしましょう。

それに、この騎士たちに守らせておけば、

弟子どもがこっそりやって来て、

この亡き骸を盗んで行こうとしても、

何の手間もなく、泥棒どもをわれらの所へ連れて来てくれるでしょう。

(15)

ピラト さあこれで、隅という隅にわしの印章を押した。

今、わしの心は喜びに溢れている。

どんな泥棒もここから盗み出すことはできない、

石の下から、奴の遺体を。

ところで、主教、あなたにお願いがある。

それにアンナスもわしと一緒に来てもらいたい。

われら三人、打ち揃って、

家路につこう。

(16)

風が出てきたので、

騎士たちよ、さあ行って、

服を着込んで、

奴を良く見守れ。

よいか、勇気を奮い起こせ、

わしと一緒に持ち堪えるのだ。

左一九〇

1275

1280

1285

金貨をやるぞ、

それに鋼鉄の剣の柄も。

「ここで、ピラトとアンナスとカヤパは出場所へ赴く。騎士たちが言う。」

(17)

アフラント 今、この大地の中に

あの人は縛られたまま横たわっている、

傷を負って――

悪い奴だったからだ。

この左隅を

警備しよう。

わしは完全武装している、

頭と頸の両方とも。

(18)

コスドラン 俺はこちら側を受け持とう、

何が起ころうとも。

たとえ誰かが馬に乗って

死骸を盗もうとやって来ても、

そいつをののしり、

幅広く手傷を負わせてやる。

奴らの中に軽やかに馬を乗り入れよう、

主力部隊と一緒に。

(19)

アメラント 俺は頭部を守り、

この近くで警戒をする。

鋼鉄の棒は

手に握っている。

あっぱれな武勇を発揮するために、

数々の頭を叩き割る。

槍先を振るえば、

恥から逃れられる。

(20)

アルファクサット このままにはしておけないから、

両足をしっかり揃えて立つ。

すっかり濡れてしまった、

血にまみれた。

歩き回ろうとする奴は、

墓の盛り土に沿って

こっちに向かつて歩いてくる奴は――

そんな不埒な奴らは気が狂っている！

(21)

騎士一 わしの頭の働きが鈍ってきた。

わしの心臓は

眠り込んだ。

聖マホメットよ、

この埋葬地を

どうか守ってください！

(22)

騎士二 わたしも同じ事を言おう。

どのような責めも

わたしは負います。

マホメットの旦那、

あんたの助けを

呼び求めます！

(23)

騎士三 体が鉛のように重い。

いくら怖くても、

わしは眠る。

力あるマホメットよ、

今夜は、この石を

守ってください！

(24)

騎士四 俺には足がない――

真っ直ぐに立てない！

盛り土の脇の

ここから願おう、

寝に帰っていいでしょうか、

たったの一眠りでいいのです。

〔ココデ、騎士タチハ眠ッテシマウ。スルト、きりすとノ靈魂ガ地獄カラあだむトいぶ、あぶらはむや洗礼者よはねナドヲ引キ連レテ登場スル。〕

第三十五番演目 キリストの黄泉降下

(1)

キリストの靈魂 アダムよ、前に出なさい——一緒に、イブも。

それに、ここにいるすべてのわたしの友たちよ、

わたしと一緒に天国へ行き、

喜びの中に留まろう。

あなたたちの敵である地獄の悪魔は

必ず苦しみ覆われ、取り巻かれる。

今はもう、あなたたちは苦しみから離れ、幸せに到り、

今まで以上に、喜びと一緒にになるのだ。

(2)

アダム 主よ、あなたの大きな恵みに感謝します——

今こそ、わたしの大きな罪が許されました。

今こそ、われらは喜びに満ちた場所に住まうことになるでしょう、

喜びと終わりのない陽気さの中に。

わたしの罪のせいで、人間は地獄に落とされ、

あなたは、その人間を救おうとして、すべてを剥ぎ取られた。
 そして、あなたはベツレヘムで乙女から生まれた――
 乙女はあなたを生んだことを永遠に祝福される。

(3)

イブ 命の主よ、あなたが祝福されますように！

わたしはアダムの妻イブです。

あなたは打たれ、殴るにまかせました、

悪さをしでかしたのがわたしたちの方だというのに。

あなたの優しい憐れみのおかげですべての人が赦されました。

命取りになる一撃があなたに加えられました。

主よ、これからは、あなたと一緒に住まうのです。

あなたの輝かしい血がわたしたちを贖ったのです。

(4)

洗礼者ヨハネ わたしはあなたのいとこで、名前はヨハネです。

あなたの打ち傷は骨まで達した。

あなたにヨルダン川で洗礼を授け、

あなたの体を洗い清めた。

わたしたちはあなたからの恵みをいだいて行きましょう、
敵のすべてから離れ、

たくさんのお喜びを見つけよう、

天国の喜びのうちに。

(5)

アブラハム わたしはまことの父アブラハムで、

ノアの洪水の後にユダヤ人を統治した。

痛ましい罪をアダムが初めに播き、

そのせいで、われらは皆、心労でおおわれた。

乙女の乳を吸う息子に

その血でわれらの呪縛を断ち切った。

地獄の獄舎は鍵を開かれぬままにある。

われらはけがれから離れ、友たちと行動する。

(6)

キリストの靈魂 立派な友たち、今やあなた方は救われたのだ。

まことの太陽があなたたちの上で輝いている。

苦しみのすべてを起こした悪霊を、

ここで、しっかりと縛っておこう。

お前は悪い蛇として姿を現わし、

とても愛しいわたしの子供たちを試そうとした。

それゆえ、今後はずっと裏切り者であり続けるお前には

苦しみの数々を新しく見つけさせてやろう。

(7)

人間から取った血によって、

邪悪の悪魔よ、お前をここで縛る。

終わりのない悲しみの中に包み込み、

その中で、お前は今後ずっと住まうのだ。

お前はもう縛り付けられて逃げ出せない。

お前には憎しみにあふれた残酷さがあるから、

終わりのない地獄落ちをさせ、

地獄から決して出さない。

(8)

ベリアル ああ、なんたることだ、このように縛られたまま、

地獄の底に留まろうとしている。

終わりのない悲しみにこのように巻き付けられている。

永遠に心労のうちに留まり、

たった独りで地獄の獄舎に横たわる。

俺の喜びはもはやみんななくなってしまった。

なぜなら、全部の悪魔が俺の敵だ。

地獄から決して出られない！

(9)

キリストの靈魂 今やあなたたちの敵は地獄に縛り込められ、

あなたたちを殺す暇もなかった。

このように、わたしは立ち上がる、肉も皮も体ごと――

あなたたちのために切り裂かれたものだ、

わたしの体は十字架上に吊るされた、

これまでにないほど半狂乱となったユダヤ人によって。

肉も血も両方とも立ち上がる――

さあ、ここでわたしは体を取る。

〔ココデ、きりすとノ靈魂ハ甦エロウトスル体ニ替ワリ、甦ッタいえすが言ウ。〕

「復活」

(1)

イエス これまでずっと辛い道を辿り、

多くの苦痛に耐え、

棒杭と石にけつまずいた、

三十三年近くも。

わたしは父の玉座から降りた、

人間の苦痛を和らげるために。

わたしの肉体は骨が出るまで殴られ、

わたしの血はすっかり流れ出た。

(2)

人間を愛しているので、わたしは死をこうむり、

人間を愛しているので、直ぐに立ち上がった。

人間のために、この体をパンの形にした、

人間の魂を養うために。

人間よ、もしもわたしをこのまま一人で行かせ、

直ぐにわたしの後に付いてくる気がないのなら、
人間よ、あなたはわたしのような友を決して見出せない、
あなたの必要な時に助けてくれるような友を。

(3)

メデタシ、聖ナル母ヨ！ わたしの愛しい母よ、
恵み豊かな喜び顔の母上よ！

そうです、肉体と共にすっかり立ち上がったのです、
穴深く葬られていたあなたの息子は。

今日があなたにお話してあった三日目です——

真に冷たい地面から必ず立ちあがる、というその日です。

きわめて大きな気持ちになって、ここにこうしてわたしがいるので、
もうこれ以上、涙を流さないでください。

マリア ようこそいらした、わたしの主、ようこそ、わたしの恵み、

ようこそ、わたしの息子、わたしの慰め！

いずれの場所にいたとしても、あなたを拝みます、

ようこそいらした、力の神である主よ！

心に多くの悲しみをわたしは抱えていました、

あなたが死の床に横たわっていた時には。

しかし、今や、わたしの喜びは新しく育まりました。

この光景を見て、すべての人が喜ぶことでしょう。

(4)

イエス 見捨てられていたこの世すべての人たちは、

朝も晩も、いつでもあなたを必ず拝むでしょう。

なぜなら、あなたからわたしが生まれてこなかったなら、

人間は地獄に置き忘れられていたことでしょう。

わたしは死んで命を得ました。

そして、わたしの死によって、わたしは人間を救います。

なぜなら、わたしはこうして墓から立ち上がったのだから、

人間はこれで天国に住まうことになるでしょう。

(5)

マリヤ ああ、愛しい息子、お前の今の言葉はすばらしい。

あなたの貴重な血が祝福されますように！

かくして人間は救われたのです。

イエス ところで、愛しい母よ、ここでおいとまします。

わたしの悲しみの気分を充分に慰めてくれた。

あなたは心に喜びと陽気さをお持ちください――

死は死んで、命が目覚めたのですから。

今こそわたしはわたしの墓から立ち上がったのです。

(6)

マリア さようなら、わたしの息子、さようなら、わたしの子、

さようなら、わたしの主、とても優しいわたしの神よ、

最初は取り乱していたわたしの心も落ちつきました。

さようなら、他ならぬわたしの愛しい愛よ、

さあ、すべての人間よ、この喜びを楽しみなさい。

なぜなら、見てお分かりのように、死は死んで、

命は立ち上がり、終わりのないものになり、

高い天に住まうことになったのです。

(7)

わたしの息子が十字架に釘刺しになった時、

すべての女性がわたしと一緒に嘆いたに違いありません。

なぜなら、それ以上の大きな悲しみはなかりうと思われたからです、

わたしがこうむった以上の悲しみは。

しかし、今の喜びはすべての悲しみを越えています、
わたしの子があつた朝に耐えた悲しみを。

なぜなら、このようにあの子はわたしたちの指導者に確約したのです、
わたしたちすべてを喜びに連れて行く、と。

〔ココデ、墓ヲ守ル騎士タチガ目ヲ覚マス。〕

(8)

騎士一 起きろ、起きろ！

山が震え、

木々が振るえた。

直ぐそばで、真つ二つに

石という石は裂けた。

肝がつぶれるくらいびっくりして、

耳は騒音で呆然となった。

俺はこうなつて当然の報いを受けたということなのか？

(9)

騎士二 奴が立ち上がったことは否定できない、

死んで土の中で冷たくなつていた奴が。

立ち上がったこの日を信じよ。

俺にとつては大きな不思議だ――

自分独りの力で立ち上がり、

己の道を真つ直ぐに進んでいる。

こうなつては、われらの報酬はどうなるのだろう、

ピラト様がわれらと会われる時の？

(10)

騎士三 さあ、行こう、

ピラト様の所へ。

そして、丁度そのように、

われらが見たとおりに、

真実を申しあげよう。

奴が地べたから

今日、立ち上がった、と。

ユダヤ人たちが殺した奴が。

(11)

騎士四 それが一番いいことだと思ふ――

決して休むことなく、
直ぐに出掛けて行って
事を終わらせることだ。

ピラト様、すべてにおいて万歳！

あなたの国で、

あの男が立ち上がりました、つい先ごろに、

あなたが死刑にした男が。

(12)

ピラト　なんだと、なんだと、なんだと、なんだと！

いまいましい奴め、お前はなぜそんなことを言うのか！

なんたる悪党め、

そんなことを良く言えたものだ、

お前のせいでわしの心臓がひどく痛む、

奴について嘘をついている、悪い泥棒め、

奴がどのようにして立ち上がって、生き返ったというのだ――

死んで地面に横たわっていた奴だぞ！

(13)

騎士一 確かに、閣下がそんなにお怒りになれたのは今まで一度もなかったし、

報せをそのように嫌われたこともありませんでしたが、

奴はすっかり大地の上を生きて動いています、

生きている、命ある人間としてです。

われらは心配です、もしもこういうことであつたのなら、

つまり、心に大きな心配を抱えておられたのなら、

喜びを剥ぎ取られ、

顔色も青白く、青ざめておられるなら。

(14)

ピラト お前たちは墓に向く前に、

皆で誓った、

皆一緒になつて戦い、

ぶちのめし、縛り上げる、と。

これらすべては偽りであつた！

お前たちの言葉は高慢そのものだったのだ――

それは確かなことだ、

お前たちが偽りを言ったことが分かつた。

騎士二 悪魔の死に掛けて言います――

(15)

奴にはひどく悩まされたので、

眠りに落ちてはいけなと、

横向きになってさえも、

地面に横たわった時には、

まるで体を縛りつけられたように、われらはじつと横になっていました。

千ポンド貫つても起き上がりたくはありませんでした、

この広い世界のすべて呉れると言われても！

(16)

ピラト 今となつては、お前たちのはただの高慢さだったのだ！

お前たちすべての名声も今やついえた。

田園地帯でも町でも、郊外でも、至る所で、

人々はお前たちのことを騎士としてふさわしくないと断言するだろう。

今やお前たちのすべての名声はついえた。

そして、われらの誰もがお前たちを軽蔑し、

お前たちに向かって、「行つて麦畑に座つて、

「鴉を追い立てろ」と命じるだろうさ。

(17)

騎士三 そのとおりです、われらの高慢さを引っ込める好い時です。

なぜなら、肉体が再び靈魂を得たのなら、

奴は大勢の軍隊を、

王を、騎士を、平民を怖がらせるだろう。

そのとおりです、地獄の穴から立ち上がった時に、

あのようにすごい地震があったので、

すべての世界は震え、

われらを気違いのようにさせたのでした。

(18)

騎士四 そのとおりだ、皆、わしの言うことを聞いてくれ。

夜も昼も、止めることなく、

あるがままに真実を言い続けよう。

われらが行く地域では、

わしはあえてこの首をかけて言うが、

キリストの掟を守る者たちは

死ぬまで決して話し止むことがない、
キリストにもたらされた死について。

(19)

騎士一 ベリアルに掛けて言う、今の話は良く意図されたものだ、

この忠告に賛成しよう、

意見が一致しているから言い広めにゆこう、

あの人は今日、立ち上がった、と。

騎士二 そのとおりであることを認め、しかもずばりと言おう、

あの人は独りだけの力で立ち上がった、と。

なぜなら、昼も夜も、誰も来なかった、

土の中にいるあの人を助け出そうとする者は。

(20)

ピラト それでは、諸公にお願いする、

しばらくの間、じっと待っていて欲しい、

わしが相談役を呼び入れて、

かれらの助言を聞く間は。

騎士一 閣下、あなたのお願いですから、お待ちします、

この場所で、少しの間、
しかし、あまり長いことぐずつかないでください、馬に乘らなくてはなりません、
長いこと留まれません。

(21)

ピラト さて、諸侯よ、ここにお願いの筋がある、
わしに良い助言をいくつか授けてくれ。
なぜなら、諸侯よ、疑いもなく、
われらには大きな疑いがあるからだ。

カヤパ 今、真実、閣下にお伝えしましょう、
この事は危険極まりないものです。
これに関わるのは危険です。
それに、もたらされるのは悪そのものです。

(22)

アンナス ピラト閣下、偉大なる最高法院判事、
あなたが知恵者であつても、
真面目に、善意を持つてお聞きください、
あなたがするべき事が何なのかを。

わたしの判断にしたがつてご助言をいたします。
この不思議な話に奴らの注意を向けさせ、
これに基づいて、良い報酬をおやりなさい、
金貨と銀貨の両方を。

(23)

加えて、その理由を閣下にお話しよう、
あなたの耳にこつそりと。

われら三人に間で、

さあ、皆さん方、良くお聞きください。

〔ココデ、ぴらとトかやばトあんなすハ密談ヲ交ワス。ソレガ終ワルト、あんなすガ語ル。〕

(24)

アンナス どの審問においてもほとんどの者が報酬のためにするのです。

西も東も、どこにおいても、報酬こそが師匠なのです。

お二方、今や確かに、これが最高のものと思います、

人は報酬で大麦を束ねます。

(25)

カヤパ 確かにあなたのご助言はすばらしい。

この騎士たちに気分を変えるように頼んでくだされ。

黄金のご馳走をくれてやれば、

奴らの分別も変わるかもしれない。

ピラト お二方の良い助言を全うしましょう。

さあ、優しい騎士の皆さん、わしの所に来なさい。

諸公に良い意思をお持ちになるようにお願いする、

そんなに遠くへ逃げないで。

(26)

優しい騎士たちよ、お願いだ、

もっと好い言葉を言ってくれ。

さあ、言ってくれ、「奴は捕まった、

夜半に弟子たちと一緒にのところを」と。

言ってくれ、「奴は弟子たちと飯を食っていた」と。

わしは願うぞ、お前たちが馬上にあって

財布の中にしっかりと奴らの金貨を仕舞い込み、

真つ直ぐローマへ馬を進めてもらいたい。

(27)

騎士四 さても、ピラト閣下、

われらは出立します。

馬鹿なおしゃべりはしません

これ以上、長くは。

今や金貨をいただいたので、

無駄な話はいたしません、

どんな所にいる人たちに向かつて。

あなたに誓います。

(28)

ピラト さあ、力ある者たちよ、

すでに約束したように、

真っ直ぐに行くのだぞ、

約束の言葉をたがえるな。

そして、諸公の方々は行くのだ、

直ぐにわたしと一緒に

一人一人それぞれ全部、

わしの屋敷の大広間へ。

(29)

騎士一 さあ、ここからわれわれは立ちます、

鹿のように軽やかに、

そして、ちょうど口にしたとおりに、

そのままに、

われらの胸のうちに納めましょう、

いずこの場所に留まることがあっても、

話一つしません、

ご不安のないように。

〔ここで、「ご復活」が終わり、「三人のマリアへのお告げ」へ続く。〕

一九六
1640